

The Special Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra "The 9th Symphony of Beethoven"

ガエタノ・デスピノーサ指揮の第九

4人の独唱、京響コーラスと共に大切な人と過ごす年の瀬に

指揮
ガエタノ・デスピノーサ
Conductor: Gaetano d'Espinosa

合唱
京響コーラス
Chorus: Kyoto Symphony Chorus



ソプラノ
隠岐 彩夏
Soprano: Ayaka Oki



カウンターテナー
藤木 大地
Countertenor: Daichi Fujiki



テノール
城 宏憲
Tenor: Hironori Jo



バリトン
大西 宇宙
Baritone: Takaaki Onishi

第九 コンサート

ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調 作品125 「合唱つき」
Beethoven: Symphony No.9 in D minor op.125 "Choral"

2024 12.27 (金)・12.28 (土) 京都コンサートホール
午後7時開演 (午後6時開場) Fri, Dec. 27, 2024 / 7:00PM
午後2時30分開演 (午後1時30分開場) Sat, Dec. 28, 2024 / 2:30PM
京都市営地下鉄烏丸線「北山」駅下車、出口1・3番から南へ徒歩約5分
Kyoto Concert Hall

入場料 2024.10/11(金)から発売
S 5,500円 A 5,000円 B 4,000円 C 3,000円

「U22」(当日残席がある場合のみ発売)
S 2,000円 A 1,500円 B 1,000円 C 1,000円

※22歳以下のお客様が対象です。開演1時間前から発売(当日券売場にてお問い合わせください)。電話や窓口での事前予約はできません。席種は選べますが、座席指定はできません。ご購入及びご入場の際には年齢の確認できる証明書をご提示ください。

チケットご予約
・京都コンサートホール (075)711-3231
・ロームシアター京都 (075)746-3201
・24時間オンラインチケット購入
https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/
・チケットぴあ https://t.pia.jp/
Pコード 252-737
・ローソンチケット https://l-tike.com/
Lコード 55866

- ◆1歳以上未就学のお子様は「託児ルーム」(有料・要予約・定員10名)をご利用ください。(お子様お1人につき1,000円/2024年12月20日までに京響075-222-0347へお申し込みください)
- ◆10枚以上のチケットお申し込みには団体割引(10%OFF)があります。京響(075-222-0347)までお問い合わせください。
- ◆障がいのある方ご本人及び介助の方1名に限り1割引いたします。京都コンサートホール・ロームシアター京都のみで取扱います(窓口で手帳等の証明書をご提示ください)。



お問い合わせ 京都市交響楽団 (075)222-0347 https://www.kyoto-symphony.jp/ →
京都コンサートホール (075)711-3231 https://www.kyotoconcerthall.org/

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都市 協賛：ローム株式会社 協力：株式会社ドルチェ楽器 後援：(株)エフエム京都 発行：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

美しいひびき、感動にみちた
音楽との出会いをお届けします。



第九 コンサート

The Special Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra
“The 9th Symphony of Beethoven”

これを聴かなければ一年が終わらない、年末恒例の第九！今回はヨーロッパで活躍するオペラ指揮者ガエタノ・デスピノーサによる、彼がセレクトした独唱者たちと京響コーラスとのコラボレーション。終わり良ければすべてよし。年の瀬の行事として、ぜひともご家族そろって京響の第九にお越しください。京響一同、皆様のお越しをお待ちしております！

指揮 ガエタノ・デスピノーサ

Conductor: Gaetano d'Espinoza



イタリア・パレルモで生まれ、ピアノ、ヴァイオリン、作曲を学ぶ。1992年ヴィットリオ・ヴェネト、1996年ロヴェレ・ドーロ国際音楽コンクールで最高位を獲得し、ヴァイオリニストとしてキャリアをスタート。2003年から2008年までザクセン州立歌劇場（ドレスデン国立歌劇場）コンサートマスターを務める。ファビオ・ルイージとの出会いをきっかけに2008年以降指揮者としての活動に専念すると、クレメラータ・バルティカ、プラハ・フィルハーモニア管弦楽団、フェニーチェ歌劇場管弦楽団、フィレンツェ五月祭管弦楽団、サンタ・チェチリア国立アカデミー管弦楽団、トリノRAI交響楽団などに一気にデビューを飾る。日本にも2011年以降指揮者として度々来日し、NHK交響楽団をはじめ数多くの公演に招かれている。2012年～2017年、ミラノ・ヴェルディ交響楽団首席客演指揮者。オペラでは2010年ザクセン州立歌劇場『椿姫』、翌年ジェノヴァ歌劇場『道化師』を指揮し成功を収めると、リヨン歌劇場、グラーツ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、あいちトリエンナーレ『魔笛』、二期会『蝶々夫人』などに登壇。2021年11月コロナ禍における入国制限直前に来日を果たすとN響、大フィル、読響、京響、東芝ブランドコンサートを指揮、さらに新国立劇場に『さまよえるオランダ人』、『愛の妙薬』でデビューを飾るなど八面六臂の活躍が記憶に新しい。京都市交響楽団とは、2016年9月の第605回、2022年2月の第664回定期演奏会で共演している。

合唱 京響コーラス

Chorus: Kyoto Symphony Chorus

1995年秋、京都コンサートホールが完成した当時の京響常任指揮者&音楽監督・井上道義の提唱で「京響第九合唱団」として結成。その後「京響市民合唱団」と改名し、2012年からはさらに音楽的な高みをめざして、京響の自主演奏会を軸にオーケストラ合唱作品に取り組み「京響コーラス」と名称を変更、創立者の井上道義を創立カベルマイスター、当時の京響常任指揮者広上淳一をスーパーヴァイザーに迎えて新たにスタートした。現在、約130名の団員で構成されており、毎週月曜日の夜を中心に京響練習場・京都市内文化会館等で練習を行っている。

京都市交響楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年、第12代常任指揮者の広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞、同年6月、広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収めた。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等を受賞。2020年4月、第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一（2022年3月まで）、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッド（2023年3月まで）が就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。2023年4月から第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任、さらに2024年4月からは首席客演指揮者にヤン・ヴィレム・デ・フリースが就任。京響は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



©井上興事務所 井上嘉利

ソプラノ 隠岐 彩夏

Soprano: Ayaka Oki

歌曲やオラトリオに幅広いレパートリーを誇り、多くのコンサートでソリストを務めるソプラノ歌手。その清冽かつ印象的な声は、聴衆の心を捉えて離さない。岩手大学教育学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士、博士後期課程修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてニューヨークにて研鑽を積む。友愛ドイツ歌曲コンクール第1位。日本音楽コンクール第1位、岩谷賞（聴衆賞）、E.ナカミチ賞を受賞。三菱地所賞、東興文化選奨など受賞多数。インバル/東京都交響楽団「第九」、ソット/東京交響楽団「第九」、下野竜也/広島交響楽団「平和の夕べ」、[「マタイ受難曲」]、「メサイア」、モーツァルト、ブラームス、フォーレ、ドヴォルザーク「レクイエム」、「パウルス」、「エリヤス」、マーラー「交響曲第4番」、「セメレ」セメレ役、『魔笛』パミーナ役、「ラ・ボエーム」ミミ役等出演。2023年、矢部達哉、横山幸雄両氏との共演によるCD「愛しの夜」（キングレコード）をリリース。「レコード芸術」誌で特選盤に選出される。2025年から生まれ故郷の青森でスタートする「青い海と森の音楽祭」（芸術総監督：沖澤のどか）の音楽主幹に就任した。



©Y.Hanai

カウンターテナー 藤木 大地

Countertenor: Daichi Fujiki

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場にライマン『メデア』ヘロルド役に鮮烈にデビュー。東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ポロニヤ歌劇場にてグルック『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。2021年、3枚目のアルバム「いのちのうた」がキングインターナショナルよりリリースされた。2023年は〈全国共同制作オペラ〉J.シュトラウスⅡ世「こらもり」オルロフスキー公爵役、2024年は東京芸術劇場コンサートオペラ オフペンバック『美しきエレヌ』オレステス役で出演。デビューから現在まで話題の中心に存在する、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー（2021-2023）。大和高田さざんかホール レジデント・アーティスト。Official Website : www.daichifujiki.com



©Hiromasa

テノール 城 宏憲

Tenor: Hironori Jo

リリコ・スピントの声質とドラマを的確に体現する演技力を持ち合わせ、国内のオペラを中心に活躍するテノール。東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所修了後、渡伊。東京・春・音楽祭R.ムーティ指揮『マクベス』マルコム、新国立劇場『さまよえるオランダ人』エリック、二期会『蝶々夫人』ピンカートン、日生劇場『ランメルモールのルチア』エドガルド、『メデア』ジャゾーネ、兵庫芸文『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ等で出演。また、コンサートでも、ベートーヴェン『第九』、ヴェルディ『レクイエム』等のソリストとしても活躍。近年も、23年2月、チームラボとのコラボで話題となった二期会『トゥーランドット』でカラフを、10月にはウィーン・フォルクスオーパー芸術監督を務めるロッテ・デ・ペアの演出による二期会『ドン・カルロ』タイトルロールを、そして今年7月には宮本亞門演出、二期会『蝶々夫人』ピンカートンを演じ、それぞれ絶賛を博した。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK「クラシックTV」出演。第84回日本音楽コンクール声楽部門第1位並びに岩谷賞（聴衆賞）、平成28年度岐阜県芸術文化奨励賞、第8回静岡国際オペラコンクール三浦環特別賞を受賞。二期会会員。



バリトン 大西 宇宙

Baritone: Takaoki Onishi

武蔵野音楽大学及び大学院、ジュリアード音楽院修了。シカゴ・リリック・オペラにてデビュー。オーケストラ声楽作品のレパートリーは幅広く、「メサイア」、「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ヴォーン・ウィリアムズ「海の交響曲」、ツェムリンスキー「抒情交響曲」、マーラー「大地の歌」、「亡き子を偲ぶ歌」、ブリテン「戦争交響曲」等。カーネギーホールにて「カルミナ・ブラーナ」、シベリウス「クレルヴォ」、ドイツ・レクイエム」のソリストを務めた。オペラではセイジ・オザワ松本フェスティバルにてルイーザ指揮「エフゲニー・オネーギン」の題名役で日本デビュー以来、国内外で「フィデリオ」「リナルド」「道化師」「ローエングリン」「ニュルンベルクのマイスタージンガー」「愛の妙薬」「トゥーランドット」等に出演し、昨今では「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「コジ・ファン・トゥッテ」で絶賛された。CDは「詩人の恋」（ピアノ：小林道夫）をBRAVO RECORDSよりリリース。五島記念文化賞オペラ新人賞、日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、ホテルオーケラ音楽賞受賞、令和5年度（第74回）芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。公式ホームページ takaoki.com/



©Marco Borggreve